

# 学級担任のまなざし 24

Okayama Prefectural Education Center

R2.7.9[Thu]

## 「正直に生きる」

体育の時間のことです。運動場で、サッカーをしていました。ある子どもが相手チームのパスをカットして、そのまま相手ゴールを目指します。猛スピードでドリブルをして、走り抜けていきます。そのボールを奪い返そうと、相手チームの子どもたちも必死に追いかけていきます。とてもスピード感のある状況です。ドリブルをしている子どもは、どんどんサイドにあるタッチラインに向かって走って行き、とうとうタッチライン直前まで進んでいきました。

その時、ドリブルをしていた子どもが急に止まり、ボールを拾い上げ、相手チームの子どもにポンと渡しました。ホイッスルは吹かれていません。「あれっ？ どうしたのだろう？」と不思議な気持ちになりました。しばらく見ていると、相手チームのスローインとなりました。そのまま、試合は続いていきます。

相手チームの子どもに「ライン、越えた？」と聞かれたその子どもは、「うん！」と悔しそうな顔をしながらも、何事もなかったかのような表情を見せていました。

いい光景でした。広い運動場なので、審判をしていても、全てを見ていることはできません。相手チームの子どもたちから「ラインを越えた」というアピールの声が上がったわけでもありません。その子どもは、ドリブルをしながらタッチラインを割ったと判断し、申告したのです。「正直だ」と思いました。同時に、「お天道様が見ている」という昔の人の言葉を思い出し、一人の人間として、感激しました。

ただ、一つ後悔があります。その時、その子どものすばらしい行為を取り上げて、しっかりほめることができなかったのです。あまりの正直さに感動し、ほめるチャンスを失ってしまったのでした。